

した防災扉を溶断したり、3号機 T/B 大物搬入口のシャッターを破壊したりして、仮設ケーブル敷設経路を確保した。さらに、東京電力社員約 40 名を動員し、新たに調達したケーブルを敷設し、更には、必要な端末処理を行うなどした。その際、同月 13 日 14 時 45 分頃、3号機 R/B の二重扉を開けてケーブルを敷設しようとする、3号機 R/B 内は、放射線量が高く（当時、APD の数値から建屋内は 300mSv/h 程度と推定していた。）、白いもやがかかっている状況であった。その 3号機 R/B 内の状況は、1号機 R/B 爆発前の 1号機 R/B 内の状況と似通っていたため、水素ガス爆発のおそれを懸念して、作業に従事した社員らが免震重要棟に避難して 2 時間以上作業中断を余儀なくされるなどし、作業に時間を要した。

結局、同月 14 日 4 時 8 分頃ようやく、3号機の原子炉格納容器雰囲気モニタ系（CAMS）及び 4号機 SFP 水温計の電源が復旧した。

- ② 他方、発電所対策本部復旧班は、1号機及び 2号機の SLC 系等の電源を復旧するため、3月 13 日 8 時 30 分頃、2C に接続した高圧電源車の再起動を試みたが、過電流リレーが動作したためケーブル損傷が判明し、結局、送電できなかった。そのため、発電所対策本部復旧班は、ケーブルの損傷部分を切り離して、新たなケーブルを運搬してつなぎ込んで再敷設をし、電源車と接続するなどの電源復旧作業を再開した。

また、同月 12 日 22 時頃、発電所対策本部復旧班は、1号機計測用電源の復旧に用いるため 2号機 T/B 大物搬入口内側に配置していた低圧電源車 1 台を、2号機計測用分電盤に接続し、送電を開始した。しかし、電工ドラムの経路に貯留した水が原因で、漏電遮断器が作動し、送電停止が繰り返され、その都度電工ドラムの交換を余儀なくされた。

さらに、1号機 R/B の爆発の影響で損傷した仮設照明用の小型発電機を取り換え、同日夜、送電を再開し、1/2 号中央制御室の仮設照明を復旧した。

- ③ 3月 14 日 11 時 1 分頃に 3号機 R/B で水素ガスによると思われる爆発が発生するまでの間、前記①及び②の電源復旧作業を行っていたが、3号機については、既に消防車を用いて原子炉への海水注入を開始しており、結局、電源復旧によって SLC 系ポンプを起動させて SLC 系注水を実施することはなかった。

その後も、3号機 R/B の爆発の影響を受けるなどし、結局、1号機から 3号機に SLC 系又は CRD 系を利用するには至らなかった。